

2010年(平成22年)04月13日(火)付け紙面より

「清河八郎」の魅力探る 生誕180年記念シンポ開催

明治維新の先駆けとなった庄内出身の志士・清河八郎(1830—63年)の生誕180年記念シンポジウムが11日、庄内町の清川公民館で開かれた。大勢の歴史ファンが出席し、記念講演やパネルディスカッションを通して“回天の士”の生涯をなぞった。

シンポジウムは、まちづくりグループ「元気・まちネット」(矢口正武代表、事務局・東京都墨田区)が、地元の清河八郎顕彰会(齋藤清会長)、立谷沢川流域振興プロジェクト協議会(遠藤仁会長)と連携して企画。八郎が生まれた当時の庄内や、八郎が目指したものについて多角的な視点から考察し、古里の再発見につなげていこうというもの。

この日は午後1時に開幕し、オープニングで元気・まちネットの矢口代表が「魅力あふれる清河八郎という人物を知り、彼が正当な評価を受けられるよう働き掛けていきたい」とあいさつした。

続いて、藤沢周平・司馬遼太郎文学研究会(山形市)代表の佐竹迪さんが「藤沢周平作品『回天の門』—郷土が生んだ清河八郎の生涯」と題して基調講演。八郎の思想に大きな影響を与えたとされる桜田門外の変について「大老暗殺は幕政への不満が爆発したというよりも、幕府の弾圧で尊皇攘夷の志士たちが深刻な危機と恐怖を抱いたため、起こった事件ではないか」と話し、「名もない志士の行動が天下を動かしたことで、八郎は『回天の時は来た』と考えただろう」と解説した。

このほか、八郎が18歳で清川村から上山まで歩いた街道を「回天の道」と名付け、昨年9月に踏査・検証した元気・まちネットの取り組みを矢口代表が解説。佐竹さんや矢口代表、清河八郎記念館常任理事の廣田幸記さんをパネラーに、パネルディスカッションなども行われた。

シンポジウムに先立ち、八郎生誕180年の今年から没後150年の2012年までの3年間に清河八郎顕彰会が取り組む各顕彰事業の開幕式典が行われ、同会が製作した顕彰事業のPR看板がお披露目された。看板は清川地区の清河八郎記念館に設置される。



清河八郎顕彰会が取り組む各顕彰事業のPR看板がお披露目された



発行所
荘内日報社
 本社/〒987-0035
 鶴岡市馬場町8-29
 電話0235-221480(代表)
 酒田支社/〒988-0045
 酒田市一番町6-2
 電話0234-221424(代表)
 ©庄内日報社 2006

● 本社代表
 TEL(0235) 22-1480
 ● 購読のお申し込み
 TEL(0235) 22-1481
 ● 編集局直通
 TEL(0235) 22-1482
 FAX(0235) 22-1427
 ● 広告のお申し込み
 TEL(0235) 22-1479
 FAX(0235) 22-2633
 ● 印刷のお申し込み
 TEL(0235) 22-1724
 ● 酒田支社
 TEL(0234) 22-4244
 FAX(0234) 26-0430

購読のお申込

市町村カテゴリ
 庄内地方全域
 酒田市
 酒田地区
 八幡地区
 松山地区
 平田地区

鶴岡市
 鶴岡地区
 藤島地区
 羽黒地区
 櫛引地区
 朝日地区
 温海地区

庄内町
 余目地区
 立川地区

遊佐町
 三川町